



題字 学園創始者元理事長故実川 博氏書



社会福祉法人友愛学園
広報誌 VOL23

発行日 平成27年9月15日
発行人 社会福祉法人 友愛学園
〒198-0001 東京都青梅市成木 2-107
電話 0428-74-5453
FAX 0428-74-6906
<http://www.yuwigakuen.or.jp/>

昭和三十三年（一九五七年）、この年は友愛学園が設立された年でありますが、この年の四月、三鷹市は大沢の地で、障害児のための入所施設としてささやかな姿で出発し、やがて現在地（青梅市、法人本部所在地）に移転（昭和四十一年）。爾来、試行錯誤を繰り返しながらも今日の姿を築き上げてきたのであります。

このような経緯から数えると再来年（平成二十八年＝二〇一七年）は六十年の歴史を刻む記念の年となりますが、どのようにしてその日を迎えることが良いのでしょうか。

過去の周年行事

開設以来、二十周年（昭和五十四年＝一九七九年）、三十五周年（平成四年＝一九九二年）、五十年（平成十九年＝二〇〇七年）の順で記念行事を行ってきましたが（経営上の都合により表題とは異なる年数のもとで実施）、そのいずれの場合も、式典、記念誌発行など一般的な形式で行ってきました。ただ、歴史の大きな節目である五十周年では、可能な限り法人内外の人々の力を借りながら、地域社会に役立つ福祉施設

開設60年を迎えるにあたって

理事長 柘植吉治

としての決意を表すことを目的として、それまでの形に加えて市民の方々のご参加を期待し、青梅市内中学校のブラスバンド演奏、市児童合唱団の出演、著名人の講演などを内容とする催しを、青梅市民会館ホールにおいて行いました。また、記念誌の発行も、周年行事ごとに発行してきましたが、ことに五十周年では、日常様々な形で法人の運営にご協力頂く方々、元職員のお声等を、寄稿、座談会等の形で寄せて頂き掲載しました。これは、それまで

障害者福祉の制度が大きく変えられ、措置制度から利用者との契約を基本とする制度へと変革していく時期にあたっていたことから、それに対応できる姿を見いだしていくことを、この機に求めたものであったと思います。

六十年の節目を

どのように迎えるか

さて、以上のような過去における周年行事の状況を振り返りながら、六十周年をどう迎えるか考えてみたいと

思います。具体的な内容は今後のこととして、まずはその基本的な考え方について提案いたします。

その一つは、五十周年以降今日までに十年有余が経過しましたが、その間、国の障害者施策が一大転換すると同時に、当法人の事業所も二カ所から五カ所へと拡大し事業内容も多様化してきました。当法人の歴史上このような急激な変化を迎えたことは初めてのことで、この間の歩みをさまざまな形でまとめ検証すること、発展し続ける当法人の将来図を描くことを試みたいと考えます。そしてその将来図が年々現実化されて行くことを願うものです。

次に、この事業（周年を記念する事業）を進めていくにあたっては、法人に所属する職員はもちろん、評議員・理事のみならずをはじめとして、様々な形で普段からお力添えいただいている方々のご意向が反映されるよう、準備の段階から直接・間接にご参加いただけるような仕組みにしたいものです。こう述べてくると、大げさな感じを与えるかもしれませんが、経費的にはささやかであっても、内容豊かな企画でありたいものです。

法人本部

法人事務局長 菅井敏文

この原稿を書いている今、三つの台風が南の海上にあります。海水温が高く、今年は、台風が発達しやすいとニュースが伝えていきます。

海水温の高さを福祉財源の逼迫とすると、日本の福祉業界にもいろいろな台風がこれから襲来するのだろうと思わず連想してしまいました。処遇改善加算の増加と報酬の減額を併せてプラスマイナスゼロ、障害分野を通過したこの台風は、見えにくい形で被害を置いて行ったように感じています。

国の経済状況と社会保障

これからやって来る大型台風は、ご存じの通りのいわゆる社会福祉法人改革とそれに合流をしている福祉医療機構の退職共済の国の助成の廃止です。これらについては、現在国会上册中ですが、遅かれ早かれ可決されるだろうと思っています。どちらもつまりは、国の社会保障の予算の削減と関連していることだと思えます。社会福祉法人改革は、組織整備の面もありますが、端緒は、内部留保問題でした。

一千兆円を超える債務が国にあり、社会保障費もこれからピークに向かう平成三十七年までに数十兆円増え、

公費負担も増大すると、関連予算の抑制も仕方ないかなと思えますが、一方で、債務全体と見比べると、そう大きな比率ではなく、国の在り方として、単純に抑制ありきでよいのかと思うところがあります。

最近、盛山和夫さんという方の本を読みました。社会保障の大部分は、経済活動であり、GDPの増加につながり、「国民負担」という言葉が当たらないこと、国の債務もプライマリーバランスの赤字を着実に減少させていくことで当面は十分であり、年金も現在の年金水準を維持する方が現役世代にとっても有利なこと、但し、増税は不可避であること、増税と経済成長は必ずしも反する関係でないことなどが書かれていました。国に債務が多いうえ、社会保障費も上昇の一途であるから減らしていくという単線的な見方ではなく、むしろその充実が国にとっても大事なのだという論調に興味を覚えました。

もちろん、反論、反証があるとは思いますが、経済学的にも実証的にもどうか判断できる力があるわけではありませんが、為政の論理だけに縛られない姿勢は持ち続けたいと改めて思いました。

退職共済制度の廃止

さて、福祉医療機構の退職共済への国の助成廃止の件を少し話したいと思えます。この退職共済は、職員の待遇改善、身分の安定、質の高い

人材確保を目的に昭和三十六年に創設されました。その費用負担は、国・都・事業者が三分の一ずつで、職員の負担はありません。このうち、国の助成を来年度加入の職員からなくしていくということですが。

平成一八年の時点で高齢者施設は先に国のこの助成がなくなっており、それに合わせて東京都も助成を行っておらず、新規に職員が加入する場合には、障害者施設も実質三倍の額を法人が納入することになります。

現に加入している職員は助成が継続するので、一気に負担が進むということにはなりません。新規に事業所を開き、その職員を加入させれば、その分は増えます。法人規模や事業種別によつては、三倍負担に耐えられないということも出るかもしれませんが、「法人の工夫」ということもあるかもしれません。後になるほど重くなってくるのは確かです。介護人材が集まらない中、魅力のある仕組みだったはずですが、残念です。

法案が通つてしまえば、助成がなくなるわけですから、法人は、新しい職員の加入をどうするか、すでに加入している職員との関係をどうするか、態度をはつきりさせなければなりません。東社協にも退職共済はありませんし、中小企業退職共済もあります。退職の時に受け取る額に大きな開きがあります。職員にとつ

ては、福祉医療機構の退職共済が有利です。当法人としては、できる限りこちらの退職共済加入を維持する方向で対応するつもりです。

ただ、将来的に三倍負担に経営的に耐えられるかは、不安があります。当座は、内部留保の件費費のところ、退職共済のための積立が可となるような仕組みができればと思っています。

法人改革と地域貢献事業

その次に来る台風は、社会福祉法人の選別や再構成、業種の複合化の促進、大規模化による課税などでしょう。勢力を強めてやってくるということになると思います。社会福祉法人の地域貢献と生活困窮者自立支援とを結びつけようとする動きもあります。いやおうなく、社会福祉法人も社会の流れの中で変化を強いられています。

おそらくは、日本の経済成長率はこのまま低いままで。福祉(社会保障)の分配枠もこのままでは局限されたままです。既成知は、社会のシステムで権力です。これに抗する新しい知が集結できないと福祉という分野も細っていく気がします。ナビの使えない見通しの悪い道になっています。

平成26年度 事業報告

【法人本部】

人材の確保とその資質の向上は、法人の課題となっております。新しい人事管理制度が整い、来年度より動き出します。職員採用では、東社協同採用試験に参加するなど外部機関と連携して行いました。また「合理的配慮」等、職員研修の充実に取り組まれました。

児童部・成人部の浄化槽の改修、財務、生活記録用のサーバーの更新等も行いました。

その他、給与規程、就業規則の一部改正、役員等報酬規程の見直しなど必要な規程の改正を行いました。

【友愛学園児童部】

軽度の知的障害に自閉症スペクトラムや精神疾患を伴う児童の入所が増えています。こうした児童の場合、寄り添い方が難しく、また、進路でも苦勞をした面もありましたが、なんとか希望に沿えました。

小規模ユニットケア実施に向け、検討を重ねてきました。利用者状況の変化があり、長期的に見て経営が可能か、現在改めて精査をしています。

今年度から給食業務を外部委託しましたが、利用者の意見も取り入れ、順調に推移しました。

【友愛学園成人部】

高齢化の進む中、虐待防止、権利擁護、合理的配慮を事業上の要点とし、支援に取り組みました。ケガや骨折事故防止のために、リスクマネジメント委員会等で支援の見直しを行い、事故に繋がらない支援に取り組みました。

他の障害者支援施設等と連携して、昨年度に続き、青梅市内で「かわいいモノ」と小さな芸術祭（作品展）を開催しました。また、デザインナーの山本寛斎氏のファッションショーに友愛工房の作品が展示されました。日中活動を通して地域との関係が広がっています。

【放課後等 デイサービス （とことん）】

個別支援計画に沿って児童が楽しみながら主体的に活動できるように支援しました。年間延べ利用者数は、千八百二十八人で当初目標を上回りました。

【相談支援事業所 おおぞら】

昨年度のサービス等利用計画数（新規作成分）は、四十一件、今年度は百二十二件で三倍に増えました。傾向として家庭崩壊や虐待に繋がりがねない児童のケースが増えています。関係者会議の開催も増えました。

【グループホーム ◇すてっぷ小中尾】

青梅市二俣尾に土地を取得し、東京都から補助を受け、新ユニットとなるグループホーム「やまなみ」を開所することになりました。工事が遅れ、二十七年九月開所となっています。七人定員です。グループホームについては、今後も増設をしていく予定です。

◇とも

「よく働き、よく遊ぶ」モットーのもと、利用者の方それぞれ社会生活を楽しんでいきます。また、東日本大震災の被災地支援として継続的にカンパをさせていただきました。

【青梅福祉作業所】

一日の平均利用者数が開所以来初めて六十人を超えました。作業収入も百三十万円ほど増えています。工賃のレベルはまだまだですが、引き続きその向上に努めていきます。

二名の方が就労しました。就労では毎年実績を上げていますが、他機関との連携を大事に今後も力を入れていきます。

利用者の居住範囲が九市二町に亘ることから、防災対策に特に留意しました。非常用滑り台の体験、炊き出し訓練等を実施しました。

【はあとぴあ原宿】

◇施設入所支援・生活介護

「安全・清潔」「快適」「生きがい」をキーワードに支援を提供してきました。加齢等により健康面に特に注意を払わなければならない方もいますが、それぞれの利用者の方が生き生きとふるまえ、能力が発揮できるような場を、日中活動、余暇活動等でこれからも用意してまいります。

◇児童発達支援

渋谷区子ども総合センター内にキッズ分室が増設され、利用頻度が上がり、療育の量・質が向上しました。

家族の集い等により保護者支援を行うとともに、学校説明会等への同行支援など進路指導にも積極的に取り組まれました。

【青梅市 障害者就労支援センター】

障害者雇用推進の国の施策もあり、新規就職者数は、三十二人と過去最高になりました。但し、正規雇用は一名のみで、パート雇用が殆どであり、生活保障面での不安は残っています。

職場訪問、定期面談、土曜相談日等により職場定着支援を行いました。定着・継続の支援は重要で、支援件数の半分以上を占めています。生活支援と併せ、今後とも対応します。

【貸借対照表】平成27年3月31日現在		(単位:円)			
勘定科目		社会福祉事業	公益事業	内部取引 消去	法人合計
資産	流動資産	339,128,352	1,619,030	-35,356	340,712,026
	固定資産	1,863,639,092	905,280	0	1,864,544,372
	基本財産	725,083,973	0	0	725,083,973
	その他の固定資産	1,138,555,119	905,280	0	1,139,460,399
	資産の部合計	2,202,767,444	2,524,310	-35,356	2,205,256,398
負債	流動負債	169,353,990	2,297,857	-35,356	171,616,491
	固定負債	108,322,078	905,280	0	109,227,358
	負債の部合計	277,676,068	3,203,137	-35,356	280,843,849
純資産	基本金	253,204,928	0	0	253,204,928
	国庫補助金等特別積立金	499,160,120	0	0	499,160,120
	その他の積立金	906,740,000	0	0	906,740,000
		265,986,328	-678,827	0	265,307,501
	(うち当期活動増減差額)	58,016,467	156,100	0	58,172,567
	純資産の部合計	1,925,091,376	-678,827	0	1,924,412,549
負債及び純資産の部合計		2,202,767,444	2,524,310	-35,356	2,205,256,398

【事業活動内訳表】平成26年4月1日～平成27年3月31日		(単位:円)			
勘定科目		社会福祉事業 本部・児童部・成人部 青梅福作・はあとびあ とも・すてっぷ	公益事業 青梅市障害者 就労支援センター	内部取引 消去	法人合計
サービス活動	サービス活動収益計	1,241,503,829	25,241,611	0	1,266,745,440
	サービス活動費用計	1,187,880,262	25,108,442	-600	1,212,988,104
	サービス活動増減差額	53,623,567	133,169	600	53,757,336
サービス活動外	サービス活動外収益計	9,335,354	11,858	-600	9,346,612
	サービス活動外費用計	5,046,588	0	0	5,046,588
	サービス活動外増減差額	4,288,766	11,858	-600	4,300,024
経常増減差額		57,912,333	145,027	0	58,057,360
特別増減	特別収益計	9,005,049	12,000	-12,927	9,004,122
	特別費用計	8,900,915	927	-12,927	8,888,915
	特別増減差額	104,134	11,073	0	115,207
繰越活動増減差額	当期活動増減差額	58,016,467	156,100	0	58,172,567
	前期繰越活動増減差額	761,925,061	-834,927	0	761,090,134
	当期末繰越活動増減差額	819,941,528	-678,827	0	819,262,701
	基本金取崩額	0	0	0	0
	その他の積立金取崩額	122,784,800	0	0	122,784,800
	その他の積立金積立額	676,740,000	0	0	676,740,000
	次期繰越活動増減差額	265,986,328	-678,827	0	265,307,501

平成27年度 事業計画

友愛学園成人部 【施設入所支援】

・生活介護

利用者の高齢化が進んでいます。生活しやすい環境作りに努めるとともに、利用者の意思を尊重した支援を行います。

また、日中活動のメニューの見直しを図り、各種作品展等を開催し、地域交流に積極的に取り組みます。

友愛学園児童部

【障害児入所施設】

小規模ユニットケア実現のために検討を重ねています。方向は定めつつも、一方で、重度偏重の給付費制度の中、発達障害のある軽度児童の増加が続き将来的に安定した経営ができるか、不安が残ります。

とことこ

【放課後等デイサービス】

現在使用している建物が手狭です。改修を検討します。

学校の個別指導計画と連動した個別支援計画を作成し、サービスの向上に努めます。

グループホーム

今年9月に新しいグループホーム「やまなみ」が開所します。引き続き、グループホームの整備を行っていきます。

法人本部

新しい人事管理制度が動き出します。法人事業を主体的に担える人材の育成を目指します。

地域利用者を対象にした生活介護事業所の設立を計画しています。

相談支援事業所 おおぞら

障害種別に関わらず、希望に応じ、サービス等利用計画を作成し、利用者が地域で安心して暮らせる支援を行います。

青梅市

障害者就労支援センター

就労した後の定着・継続の支援は重要です。ハローワーク等と適切に連携し地域生活を支えます。生活、余暇の支援等についても適宜助言等行います。

はあとびあ原宿

【施設入所支援・生活介護】

開所して7年が過ぎ、利用者の重度化、高齢化が進んでいます。渋谷区のご理解により、送迎バスが1台増車されました。この活用を含め、きめ細かな利用者支援を行います。

はあとびあキッズ【児童発達支援】

分室の移転による拡充が検討されています。より多くの児童を受け入れ、専門的な療育を行います。

青梅福祉作業所

安定した地域生活のために多くの利用希望に応えるとともに、工賃アップ、就労支援などサービスの質の向上に取り組みます。家庭等とも連携し、満足感の持てる生活の支援を行います。

【平成27年度資金収支予算書】

(単位:千円)

勘定科目	拠点区分							法人合計	
	本部	児童部	成人部	はあとびあ原宿	青梅福祉作業所	ともすてっぷ	青梅市障害者就労支援センター		
事業活動収支	収入計	2,430	214,947	420,320	468,902	125,843	71,042	26,527	1,330,011
	支出計	10,833	215,148	397,671	463,910	111,697	62,212	26,223	1,287,694
	資金収支差額	-8,403	-201	22,649	4,992	14,146	8,830	304	42,317
施設整備等収支	収入計	0	0	0	0	0	15,575	0	15,575
	支出計	0	459	17,940	1,308	1,746	68,270		89,723
	資金収支差額	0	-459	-17,940	-1,308	-1,746	-52,695	0	-74,148
その他の活動収支	収入計	3,021	0	0	183	0	65,890	12	69,106
	支出計	195	1,550	2,500	3,867	3,775	3,500	316	15,703
	資金収支差額	2,826	-1,550	-2,500	-3,684	-3,775	62,390	-304	53,403
予備費支出	200	1,000	500	0	0	0	0	0	1,700
当期資金収支差額	-5,777	-3,210	1,709	0	8,625	18,525	0	0	19,872
前期未払資金残高	14,939	46,654	68,607	0	25,396	7,071	0	0	162,667
当期未支払資金残高	9,162	43,444	70,316	0	34,021	25,596	0	0	182,539

児童部

保護者懇談会

三年前から、保護者会長・施設長の連名で懇談会開催の通知を出してテーマを決めて七月に実施をしています。

今年度は、七月五日に開催しました。「想いの共有」～生きにくさを抱えた子の子育て・親の心情、悩みを語ろう～をテーマに家庭での子育ての悩みや子どもを施設に入所させるにあたっての心の葛藤などを語ってもらいました。

四月、年度当初の保護者会で意見を伺い、入所されたばかりの保護者からの意見や重度児童の保護者からの軽度児童の大変さがわからないという意見などを参考に決めました。語っていただきたいいくつかのお話を掲載します。

中度・軽度児童を育てられている保護者からは、「IQが高すぎて療育手帳は取れない。」と言われたこと。食事を全部ひっくり返すなどの行為を繰り返しては反省の言葉が聞かれるが、すぐに同様の行為を延々と繰り返す、正に負のスパイラル状態で育てたい気持ちはあってもどうしたらよいのか対処のしようがなかった。父親の声を聞くだけでパニックにな

り、食事をひっくり返す、テレビを壊すという行為をするため、父親は離れて家族と会話もしない生活を続けた。マンションで隣人への迷惑等、出口のないトンネルをどこまで行くのかという感じだったと話がされました。

重度で自閉症・軽度で自閉症のふたりのお子さんを育てられている保護者からは、タイプが真逆のふたりの関係やタイプは違うが毎日、どこかで謝っている感じで気持ちも体も休まらない。先生からは「いつか大丈夫になるから」的なことを言われたが、未来でなく今どうするか考えてほしかったと、そのときの切実な心情が語られました。

重度児童を育てられている保護者からは、昼間寝ているわけでもないのに夜に起き出すため自分も寝られない。本人に何があつて起きるのか分からず、健康面で生命の危険を感じた。行政に相談に行ったとき「無理しなくていいよ」と言う言葉に救われた。やれることはやり尽くしたのだから環境を変えてみてうまくいかなかったら戻れば良いと思つて入所を決断したと話されました。

一方、家庭での養育を継続したかったが、やむなく入所を決断された話もありました。保護者の病気が要因で、と話がされた方がいる一方で短期入所の支給量は七日間と決まっていますそれ以上は支給することがで

きないので入所を考えては、と行政から言われたとの話がされました。

保護者から、異口同音に聞かれたのが、入所によって保護者・兄弟とご本人との距離がとれたこととお互いが思いやる気持ちができたり、関係が改善されたと感じているという意見でした。

とても話しづらいことや思い出すのもつらいという内容であったかと思いますが、子どもたちの行動に違いはあれど、それぞれ苦勞されてきたことを共有できたことは大きな意味があつたのではないかと思います。

今回の懇談会には、就職して二年目・四年目・六年目の職員三名が出席しました。どんな気持ちで育てられてきたのか、日々の心の葛藤や子どもに向けられた親の愛情を直に感じ取る貴重な機会となつたのではないかと感じています。

最後に、これが多くの親の気持ちを代弁しているであろうという言葉を書いて報告とします。

『やれることはやり尽くしたと思ふ。でも、家で見ればあげられない申し訳なきがある。』
『問題はあつても自分の子どもだからかわいい』

保護者ボランティア

懇談会当日の午後、子どもたちと保護者が一緒にホットケーキ作りをしました。線で縁取りをしたところに生地を流しいれて

ひっくり返すと「けるけるるっぴ」が現れ、子どもたちは感激。やる気満々、満面の笑顔で楽しいひと時を過ごすことができました。



土田保護者会長始め、ご参加くださいました保護者の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

成人部

作品展
「引き合う力」
を開催



二〇一五年六月五日〜二十八日まで、東京都港区北青山にある、伊藤忠青山アートスクエアにて開催しました。
今回のテーマは「引き合う力」生き生きとした魅力あふれる作品を通して、人を引きつけ、



がほとばしる作品を百点ほど展示し

新しい作品を生み出すようにという思いが詰まった作品展となりました。
藍染、陶器、和紙、木製品など、利用者さんの独特の感性



ました。
また、山本寛齋氏が昨年十月に友愛学園の作品とコラボした、日本トコロ外交関係樹立九十周年事業「HELLO



「ISTANBUL」で使われたドレスも展示しました。

山本寛齋氏には、二十六日に会場でトークショーに参加して頂き、アートに対する熱い想いを語っていただきました。



長年お世話になっている映画監督のご協力があり、創作風景など普段の様子を撮影した映像

を会場で上映したり、週末には小物商品の販売をしたりしました。小さなお子さんからご年配の方まで、幅広い世代の方たちに足を運んで頂き、多くの方に作品を見て頂くことが出来ました。作品をご覧になった方から、「エネルギーがすごい!」「感性が素晴らしい!」「素敵です」とたくさん嬉しい感想をいただきました。友愛学園の創作活動の素晴らしさを体感し、興味を持って頂けたと感じています。



平成二十七年
新任職員六名をご紹介します。
どうぞよろしくお願いたします。

池田綾佳

杉本佐紀

細谷成海

曾根祐人

穴澤宗之

佐藤高人

地域支援

◆相談支援事業所 おおぞら

今年度からグループホームと相談支援事業を分けて対応する事になりました。

計画相談件数の増加で対応が難しくなったため、四月から成人部入所者については研修を終了した主任が担当することになりました。

在宅の児童では虐待が疑われるケースもあり、家族と接点を増やしたり、行政担当者との会議や情報交換をするなど連携して取り組んでいます。かわりを増やし、サービス調整をする中で家族が状況を客観的に受け入れたり、精神的な負担が軽減できたりするなど少しずつ改善が見られるケースがあり、計画相談の有効性を感じるどころです。

計画相談だけでなく、五月末に市役所で福祉健康まつりの相談コーナー、六月中旬に障害者地域自立支援協議会の巡回相談を中央図書館とサポートセンターで今年も担当しました。在宅の方からグループホームや日中活動、送迎のことなど具体的な相談を受け、六月初めに青峰学園で保護者対象の学習会で計画相談について説明する場の提供を受けました。計画相談がまだ浸透していないこともありませんが関心の高さが感じられました。

◆グループホーム

すてっぷ小中尾七名、ハウス小嶺三名、フオレストア三名、とも二名、とも五名の、それぞれのグループホームでくらししている人たちは、皆変わりなく元気に過ごしています。

一生懸命働いて、休日は余暇を思い思い楽しんでいきます。ひとりで買物や映画などに外出したり、友人と出かけたりする人もいます。移動支援サービスを利用して、買物や映画に行ったり、都内まで遠出したり、定期的な日帰り旅行をする人もいます。自分の人生を主体的に生き、自分らしく生活していけるように支援していきたいと思っています。

すてっぷの担当職員が変わったので、あいさつを兼ねて職場訪問をしました。職場の人たちの理解や本人の頑張りで就労が継続されていることがわかりました。今後も健康で働き続けられることを願っています。念願だった、新しいグループホームが九月一日に開所します。成木とは離れた二俣尾に、定員七名のグループホームができました。二俣尾の駅から四分、コンビニも近いということ、便利な場所に立地しています。世話人の募集も済み、入居者の選考に入っています。

グループホーム「とも」

南三陸町見学旅行

グループホーム「とも」では、毎月働いたお金の中から五〇〇円ずつ東北の震災復興のためにカンパを続けています。利用者も職員もです。五年目を迎え「一度は被災地を自分たちの目でみたい」ということで、今度の旅行が計画され、総勢十一名で行ってきました。

現地ではぼくとつなご年配の「語り部」による説明があり、今更ながら、その被害の大きさと家族を失った方々の哀しみを知りました。

以下利用者の方たちの感想です。

「津波と地震で町がこわれていた。仙台の殿様のお墓を見た。カラオケが良かった。」(Mさん)

「地震が怖い。テレビで見たのと違った現実を見て驚いた。よい勉強になった。かたりべの人の話で地元の人みたいへんだったことがわかった。ホテルがキレイだった。カラオケが楽しかった。」(Hさん)

「テレビで見てたけど、その場所に実際に行ってみると、まだ復興していないことがわかった。がれきの跡が片づいていた。その早さに驚いた。また行って、もう一度写真を見てみたい。」(Bさん)

「商店街で写真を見て津波がすごいと思った。ウミネコが近くまで来てよかった。」(Yさん)

「津波で家が無くなって人も死んで悲しかった。自分も親がないことを思い出した。お料理やお刺身がおいしかった。ウミネコがよかった。朝風呂が気持ちよかった。」(Hさん)

「津波で人がいなくなったのが悲しかった。カラオケたくさん歌って楽しかった。朝食のビュッフェが美味しくてたくさん食べた。」(Yさん)

「むかし、おじいちゃん、おばあちゃん、おとうさん、おかあさん、おとうとと来た海と違ううみだった。」(Oさん)

ようこそお願いします。

平成十九年四月に東京都が友愛学園へ委譲して九年目に入りました。

そして、その大事な時期に所長として運営の軸となり円滑な委譲に携わった小山がこの三月に退職しました。

四月からは平成二十四年四月から副所長をしいた福田が所長として、友愛学園児童部で主任をしていた白井が副所長として就任しました。よろしくお願いいたします。

第二ステージの準備

この八年間において、一番の大事業であったものは「作業所の建て替え」でした。建設中には青梅市内の黒沢地区にプレハブの仮作業所を建て、バスによる利用者送迎をするなど職員をあわせると八十五名の大移動が最も大変でした。また、大きな事故もなく今日を迎えられたのも、地域住民の方々をはじめ、ご家族、関係者の皆さまのご協力、御理解があったからこそと思います。

その八年間の実績の上に立ち、いよいよ第二ステージの始まりとなるのですが、何よりも安全で安心できることを第一に事業を推進したいと

思っています。

ただし、安全と安心を理由に停滞することは許されなとも考えています。年間を通じてさまざまな相談があり、行き場を失っていて長い間自宅で過ごされている人が少なくないからです。

「地域に必要とされる福祉サービス事業所」であり続けていくためには、変化変容していくニーズ（必要とされていること）に常に応えていかなければなりません。

また、課題も多くなります。「低い賃金のままでよいか」「働く意欲があり、しっかりと働いている人たちに応えているか」「低賃金の下請け作業だけだよいか」「新たな作業種の可能性はないのか」「地域で困っている人たちを受け入れているか」「本意に逆らって遠方の入所施設に行くことなく、グループホームを利用して通い続けられるか」「日々、生活の支援をしてがんばっているご家族の気持ちに寄り添えているか」……。

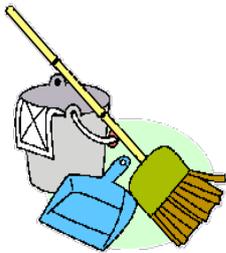
それをただ思案しているだけではなく、ひとつでも実践していくことが第二ステージなのだと思います。

障害者雇用の取り組み

「障害者の雇用促進等に関する法律」では、「障害者雇用率制度」が設けられており、事業主は、「常時雇用している労働者数」の二%以上の障害者を雇用しなければなりません。

障害者を雇用するには、作業施設や設備の改善、特別の雇用管理等が必要となるなど経済的負担を伴うこともあり、「障害者雇用率制度」に基づく雇用義務を守っている企業とそうでない企業とでは、経済的負担のアンバランスが生じます。

この経済的負担を調整するとともに、障害者雇用の促進と雇用水準を高めるために、事業主の共同拠出による「障害者雇用納付金制度」が設けられています。



当法人でもここ数年、障害者雇用についての取り組みを本格化し、法人内の各機関と連携して障害者雇用に努めています。

施設入所支援を展開する成人部・児童部では、清掃業務に知的障害の方を採用し、入職当初からジョブコーチ支援を利用して業務の切出し（注1）や作業手順、職場環境の調整等を行い職場定着に結び付けています。

施設の副施設長が担当窓口となっていることにより、情報交換が迅速かつ的確に行われ、就労支援の強化につながっています。

また、就労移行支援事業所を運営する「青梅福祉作業所」では、一般企業を離職して作業所を利用していただく方を支援員の補助として採用し、福祉的就労から一般就労へ移行するモデルケースを実現しました。

障害者雇用が、毎年、右肩上がりの実績をあげている中、当法人が障害者雇用の取り組みに積極的に参入し、一人でも多くの方の就労機会を実現できるように法人全体で努力していきます。

注1「業務の切り出し」とは仕事内容を細分化して、障がい者が従事可能な「仕事」を明確にすること。

は
あ
と
び
あ
原
宿

八回目の新年度を迎えました

六月一日で、はあとびあ原宿は開所後七年が経過し、八年目を迎えました。この春、平成二十四年度より勤務しておりました二代目施設長小川が勇退し、開所時から児童発達支援事業（はあとびあキッズ）で副施設長を務めていた

三宅が施設長に就任、副施設長には、主任としてキッズを支えていた平井が昇格し、引き続き成人副施設長を務める渡部とともに、新たな体制で新年度をスタートしています。

ありがとうございます

東京都理容生活衛生同業組合から、新品のタオルを段ボール八箱、寄贈していただきました。利用者の清潔・安全のために使わせていただいています。



理容組合の役員からタオルをいただく三宅新施設長

神宮前のフラワーショップ『FUGA（フーガ）』二年前から定期的に、事務所前にお花を飾りに来てくれます。来所される利用者や来訪者の目を楽しませ、心を和ませてくれてます。



6月に飾って頂いたブーケ

研修を実施しました

三月には、渋谷区歯科医師会のご協力により、歯磨き研修を行いました。



歯科衛生士からのアドバイスを守った成果が、六月の検診で確認できました。

四月、渋谷消防署にご協力いただき、普通救命講習を実施しました。



心臓マッサージを練習中

全職員が資格を有し、災害時や緊急時に、慌てず速やかに行動できるよう備えています。

よろしくお願ひします！

四月から、五名の職員がはあとびあ原宿の仲間に加わりました。成人の日中活動に二名、そして児童発達事業に三名配属され、笑顔の輝く毎日です。

生活介護



三戸雅子

利用者が安心して楽しく笑顔で、活動出来るよう日々の支援を行って参ります。



小池志麻

利用者様の健やかで充実した生活のお手伝いをさせて頂きながら、自分自身も成長したいと思えます。

はあとびあキッズ



兼平奈緒美

子どもたちが本来持っている可能性を最大限引き出せる療育が行える職員を目指します。



黒崎美花

少しでも早く、作業療法士として本領発揮できるように、明るく元気に頑張ります。

今年度も、職員それぞれが目標設定を行い安心・安全・快適を目指します。

【法人研修】

● 実践報告会

平成二十七年九月二十九日(火)
各事業所の実践を通じて職員
の支援力向上を目指します。

● 中堅職員研修

平成二十七年十一月二十日(金)
三年〜七年の経験のある職員
を対象にリーダー的へ向けた育
成をします。

● スーパービジョン研修

平成二十七年十二月 四日(金)
主任・リーダーを対象とした
研修です。運営管理や法規法令
に関する事を深めていきます。

● 考課者研修

平成二十七年年度から開始した人
事考課制度の要である考課者を
対処とした実務研修です。

【催事】

● はあとびあ祭

平成二十七年十月十七日
はあとびあ原宿のお祭です。
毎年色鮮やかな作品が来客者の
目を引きまます。



寄付者ご芳名 ご厚志大変ありがとうございました。(敬称は略させていただきます。)

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|-------|--------|-----|-----------|-----------|-------|-------|---------|-------|-------|-------------|---------|------|----------|-------|-------|----------|-------|-------|-------|------|-------|---------|---------|----------|-------|-------|---------|------|--------|-------------|------|-------|-----------|----------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------------|-------|------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|--------|------|------|------|-------|--------|-------|-------|------|------|--------|-------|--------|-------|-----------|-------|-----------|-------------|-------|------------|-------|-------|-------|------|-------|-----------|---------|----------|-------|-------|---------|----------|----------|-------|-------|------|-----------|-------|---------|-------|-------|--------------|-----------|------|----------|-------|-------|--------|-------|-------------|-------|---------|-------|-------|-------|--------|--------------|--------|-------------|------|--------|--------|------|------|------------|-----|----------|---------|------|---------|------|-------|-------|-----------|-------|------------|
| 青木 勉 | 赤須道子 | 浅香 昌子 | 朝見 紀代江 | 新郁子 | 社会福祉法人徳心会 | 特別養護老人ホーム | あゆみえん | 五十嵐 康 | 故五十嵐 澄子 | 五十嵐 肇 | 石井 茂男 | 社会福祉法人コロロ学舎 | 理事長 石井聖 | 石塚 勇 | 鼓代神 伊藤芳男 | 伊藤 正直 | 渋谷サロン | 会長 今里 明弘 | 浦上 雄次 | 榎戸 俊行 | 榎本 由一 | 青梅学園 | かすみの里 | 青梅成木台病院 | 青梅福祉作業所 | 保護者会 梅の実 | 大沼オキ子 | 大道 イソ | 小曾木郵便局長 | 久下幸子 | 小野塚美恵子 | (株)オレンジジャムコ | 金子信也 | 金嶽 憲義 | NPO法人にこにこ | 理事長 川崎正男 | 木崎 樹也 | 岸田 敏久 | 木村政巳 | 木森 慶蔵 | 行徳 ヨシ | 黒米 博 | 国立厨房サービス(株) | 熊木 正則 | 倉川 浩 | 小林 弘政 | (株)コイワイ | 小嶺 幸一 | 小嶺 泰佑 | 小嶺 典弘 | 小嶺 博昭 | 小宮山 都子 | 小山 隆 | 小山 穰 | 坂本 登 | 坂元 昌子 | 坂本 眞理子 | 佐藤 栄一 | 佐藤 幸春 | 社団法人 | 昭和会館 | 島崎 ツル子 | 清水 寛一 | 清水 タケ子 | 清水 宏悦 | (有)島田鋳金塗装 | 下田 幸一 | (株)協立防災工業 | 代表取締役 新藤 一夫 | 須田 恵美 | (株)青和施設工業所 | 高山 國男 | 高山 政信 | 田中 民江 | 田中 稔 | 田中 芳枝 | (株)田中染色工場 | 田中工業(株) | (有)多摩自家用 | 柘植 吉治 | 富岡 一夫 | グループホーム | 成木二丁目自治会 | 成木一丁目自治会 | 永井 眞二 | 永野 初美 | なかま亭 | 西東京農業協同組合 | 西村 幸治 | (有)野口商店 | 野口 安男 | 野口 米吉 | 社会福祉法人 東京武尊会 | 特別養護老人ホーム | 九十九園 | 施設長 野村真行 | 野村 スエ | 芳賀沼 博 | 波多野 市雄 | NPO法人 | 羽村市手をつなぐ親の会 | 土方 和子 | 日下 伝・愛子 | 福島 文雄 | 福田 和弘 | 藤野 雅俊 | 本間 ヒロ子 | (有)コミュニティストア | 三ツ橋 茂男 | (有)村松保険サービス | 室本 博 | 本山 美八郎 | 柳原 麻理子 | 山川 勇 | 山岸 巖 | 社会福祉法人それいゆ | 花の里 | 施設長 山下昌浩 | 友愛学園児童部 | 保護者会 | 友愛学園成人部 | 保護者会 | 横山 順子 | 吉岡 正夫 | 吉岡電気管理事務所 | 吉崎呉服店 | (株)四谷モーターズ |
|------|------|-------|--------|-----|-----------|-----------|-------|-------|---------|-------|-------|-------------|---------|------|----------|-------|-------|----------|-------|-------|-------|------|-------|---------|---------|----------|-------|-------|---------|------|--------|-------------|------|-------|-----------|----------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------------|-------|------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|--------|------|------|------|-------|--------|-------|-------|------|------|--------|-------|--------|-------|-----------|-------|-----------|-------------|-------|------------|-------|-------|-------|------|-------|-----------|---------|----------|-------|-------|---------|----------|----------|-------|-------|------|-----------|-------|---------|-------|-------|--------------|-----------|------|----------|-------|-------|--------|-------|-------------|-------|---------|-------|-------|-------|--------|--------------|--------|-------------|------|--------|--------|------|------|------------|-----|----------|---------|------|---------|------|-------|-------|-----------|-------|------------|

法人人事情報

平成二十七年 度

●理事（定数十名 評議員兼務）
 理事長 柘植 吉治
 副理事長 坂本 登
 理事 五十嵐 康
 副理事 田中 稔
 理事 木崎 樹也
 寺崎 勝成
 板垣 修
 山崎 勇
 島崎 ツル子
 菅井 敏文

●評議員（定数二十一名）

吉川 博千
 浦上 雄次
 野島 壮一
 長田 好正
 米村 明史
 三上 優
 田村 洋子
 山本 以文
 三宅 聖子
 太田代 貞男
 島田 健史
 南部 幸久
 木村 政巳
 菅井 敏文
 岡部 修
 内山 敏
 石川 淳
 山本 以文
 宮崎 啓太
 尾沢 栄子
 福田 和弘
 白井 秀明
 三宅 聖子
 渡部 光行
 平井 眞琴
 青梅市障害者就労
 支援センター 所長 榎戸 俊行

●執行体制

法人本部 事務局長 菅井 敏文
 同 事務次長 岡部 修
 児童部 施設長 内山 敏
 同 副施設長 石川 淳
 成人部 施設長 山本 以文
 同 副施設長（施設） 宮崎 啓太
 同 副施設長（地域） 尾沢 栄子
 青梅福祉作業所 所長 福田 和弘
 副所長 白井 秀明
 はあとびあ原宿 施設長 三宅 聖子
 同 副施設長（成人） 渡部 光行
 同 副施設長（児童） 平井 眞琴
 青梅市障害者就労
 支援センター 所長 榎戸 俊行

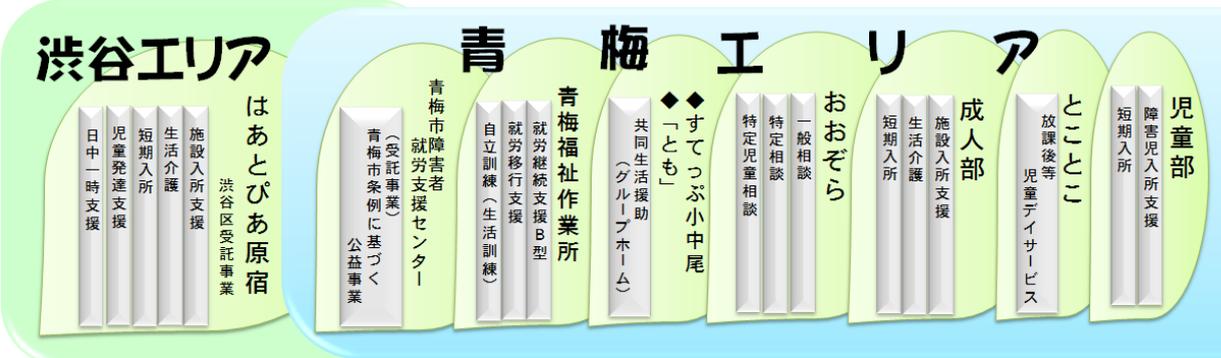
●昇任（四月一日付）

青梅福祉作業所 所長 福田 和弘（昇任）
 同 副所長 白井 秀明（同）
 はあとびあ原宿施設長 三宅 聖子（同）
 同 副施設長 平井 眞琴（同）
 児童部 主任 萩原あかね（同）
 成人部 主任 矢野 麻衣（同）
 はあとびあ 主任 安藤 真希（同）
 原宿（児童） 副主任 志村 直美（同）
 児童部 副主任 小嶺八千代（同）
 成人部 副主任 小嶺八千代（同）
 はあとびあ 副主任 鈴木 那緒（同）
 原宿（児童） 副主任 鈴木 那緒（同）
 青梅市障害者就労 支援センター 副主任 橋本 文恵（同）
 事業所間異動者（四月一日付）
 成人部 グループホーム 主任 齊藤えり子（異動）
 児童部 はあとびあ 鈴木 正俊（同）
 原宿（児童） 鈴木 那緒（同）

●新規採用者（四月一日付）

成人部（施設） 穴澤 宗之
 同（施設） 佐藤 高人
 同（施設） 細谷 成海
 同（施設） 池田 綾佳
 はあとびあ 小池 志麻
 原宿（生活介護） 三戸 雅子
 同（生活介護） 小山 隆
 【退職者】（三月三十一日付）
 青梅福祉作業所 所長 小川 順二
 はあとびあ 所長 永田 創大
 原宿 船山 正和
 児童部（施設） 佐藤 恭子
 はあとびあ 久保井 綾乃
 同（児童） 米田 陽子

法人事業一覧



後援会へのご加入案内

当法人では後援会にご加入いただける方を募っています。ご協力くださる方は左記までお問い合わせください。詳しいご案内をさせていただきます。

- 目的 友愛学園の事業を後援すること
- 会費 一口 千円
- 連絡先 友愛学園 後援会事務局
- 電話 〇四二八（七四） 五四五三
- FAX 〇四二八（七四） 六九〇六

編集後記

とある障害児教育の非常勤をしていたときに、学級通信に「〇〇学級に働いていると言うよりも〇〇市に働いているつもりだ...。」と書いて、障害児のお母さんたちにほめられた事があった。若い私はとてもうれしくて、その気持ちを今も大切にしている次第です。〇〇市とは役所のことではなく「地域に」という意味です。時がずいぶん経ち、社会福祉事業に株式会社も参入するような法律に変わりました。サービスは競争だ...。そして、株式会社に対して補助を出していないからという理由で社会福祉法人に対する退職共済の国の補助が撤廃されました。社会福祉法人は戦後の障害者などを対象とした事業を支えてきました。まだ法律にない事業を必要に迫られ実践し、後追いで法律が整備されることも少なくなかったのです。そういうことに誇りを持って社会福祉に従事してきたつもりでしたが、いつの間にか株式会社と同じだよと国から言われたようなものなのです。地域で地域のために働くという誇りは打ち砕かれたのでしょうか。そうではないはずで